

# 川上ダムに期待される効果 (平成29年台風21号に伴う洪水)

淀川水系<sup>まえふかせ</sup>前深瀬川に水資源機構<sup>みずしげんきこう</sup>が建設中の川上ダム<sup>かわかみ</sup>流域では、台風21号に伴い、ダム流域平均総雨量445ミリ（昭和59年観測開始以降、2番目）を観測しました。

この降雨により、新川上<sup>しんかわかみ</sup>水位観測所地点（前深瀬川）の河川水位は3.83メートル、<sup>ひ</sup>推定流量每秒約520立方メートルを観測しました。また、ダム下流の比土<sup>ひど</sup>水位観測所地点（木津川）では、計画高水位※を約0.5メートル超過し、岩倉<sup>いわくら</sup>水位観測所地点（木津川）では、「避難勧告」の発令基準となる「氾濫危険水位<sup>はんらん</sup>」を約2時間超過しました。

今回の洪水に対して、川上ダムが完成していた場合は、約1,210万立方メートルの水を貯留し、比土水位観測所地点において、最大約1.70メートルの水位を低減させ、約10ヘクタールの浸水面積、約10戸の家屋浸水の被害を回避するとともに、岩倉水位観測所地点の氾濫危険水位を下回る効果があったものと考えられます。

※計画高水位とは、計画高水流量（河道を建設する場合に基本となる流量で、基本高水を河道と各種洪水調節施設に合理的に配分した結果として求められる河道を流れる流量）が河川改修後の河道断面を流下するときには到達すると想定されている水位のこと。HWL（High Water Level）とも呼ばれます。

※今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

平成29年10月26日



独立行政法人 水資源機構 川上ダム建設所

発表記者クラブ

伊賀記者会

名張市政記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 川上ダム建設所 調査設計課長 小牧  
住 所：三重県伊賀市阿保<sup>あお</sup>251番地  
電 話：0595（52）1661

(参考) 川上ダムについて

○位置：淀川水系まえふか せがわ前深瀬川

左岸：三重県伊賀市青山羽根地先

右岸：三重県伊賀市阿保地先

○目的：洪水調節

流水の正常な機能の維持

新規利水（伊賀市の水道用水）

○型式：重力式コンクリートダム

○堤高：84 m

○堤頂長：334 m

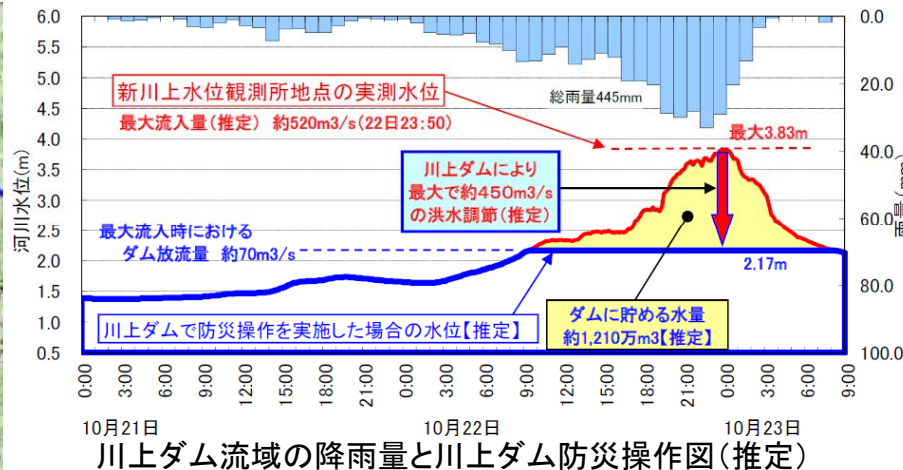
○総貯水容量：31,000,000 m<sup>3</sup>

- 川上ダム流域(前深瀬川及び川上川)における流域平均総雨量は445mmであった。(既往2位の降雨:S59観測開始以降)
- 今回の洪水において、川上ダムが完成していた場合、約1,210万 $m^3$ (京セラ大阪ドーム約10杯分)の水を貯留し、ダム下流の比土水位観測所地点(伊賀市)で、約1.70mの水位を低減させる効果があったものと考えられる。
- 比土水位観測所地点では計画高水位を超過しており、地盤の低い箇所から溢水して、約10haの浸水面積、約10戸の家屋浸水が発生する恐れもあり、川上ダムの完成は浸水リスクの低減に非常に重要である。
- 下流に位置する木津川の岩倉水位観測所(伊賀市)では、「避難勧告」の発令基準となる「氾濫危険水位」を約2時間超過したが、川上ダムが完成していた場合、同水位を下回る効果があったものと考えられる。

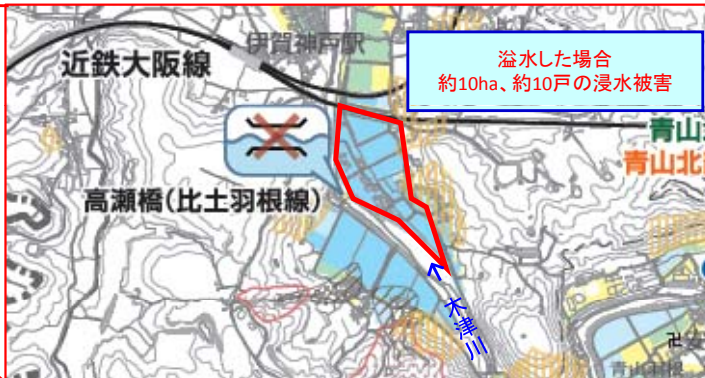
位置図



岩倉水位観測所(川上ダム地点から約20.0km下流:木津川)  
比土水位観測所(川上ダム地点から約2.0km下流:木津川)



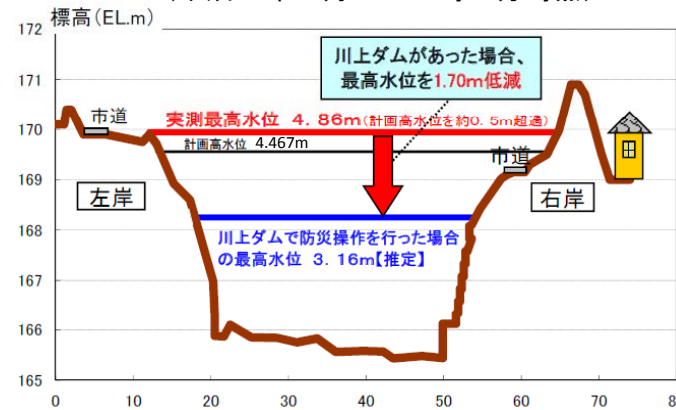
川上ダム流域の降雨量と川上ダム防災操作図(推定)  
※新川上水位観測所を川上ダム地点として算定(推定)



比土水位観測所地点で溢水(右岸)した場合の浸水想定(推定)  
※伊賀市洪水ハザードマップより算出



比土水位観測所地点上流  
(平成29年10月22日15時40分時点)



比土水位観測所地点の水位低減効果(推定)

※今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。